

令和6年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



住所: 佐世保市山手町16番38号 児童数: 155名 学級数: 7学級 校長 丸上 貴司

1 テーマ

「子どもの本物の笑顔を輝かせる学校」

2 実践内容

① 生活・学習規律の徹底

<p>・「はきものそろえ」の徹底</p>  <p>全校で「はきものそろえ」に取り組みました。4月中にきれいにならぶようになりました。特に一年生の並べ方がとても上手です。</p>	<p>・「あいさつ」ののぼり旗</p>  <p>児童会を中心に「えだまめあいさつ」というキーワードを作りました。</p>
<p>・縦割り掃除</p>  <p>1年生から6年生までのグループで掃除をします。高学年が下級生に掃除の仕方を教える場面がよく見られました。</p>	<p>・「黙想」の実施</p>  <p>落ち着いて授業に入ることができるよう、授業の前に黙想をしています。</p>

② 地域を生かした学習の充実

・交通安全教室



佐世保警察署の方をお招きして交通安全の学習をしました。

・図書ボランティアによる読み語り



今回の読み聞かせは「ブラックシアター」。音楽室をわざと暗くして読み聞かせを行っています。

・近隣の保育園や幼稚園との交流



近隣の幼稚園、保育園と1年生との交流を行いました。1回に2園ずつを2回、計4回実施しました。

・平和学習



佐世保空襲や長崎原爆の学習と発表を4年生が行いました。グループに分かれて発表しました。

・3年社会科見学



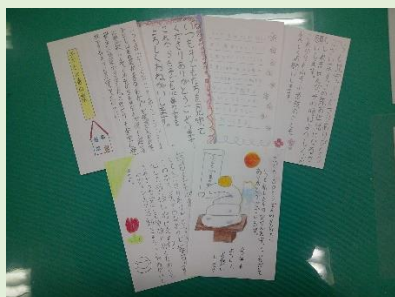
鮮鼓堂への見学を3年生が行いました。

・中学生の職場体験学習



職場体験にきた祇園中学校の生徒との交流を行いました。

・子ども110番の家へお礼の手紙を



いつも見守ってくださっている子ども110番の家の方へ、6年生がお礼の手紙を書きました。

・ふるさと環境学習



4年生がパールシーリゾートに行き、九十九島の動植物について学びました。

クリーンアップ大作戦



学校の清掃活動に民生委員児童委員の皆さんが参加してくださいました。

・居住地校交流



校区に住む支援学校の児童との交流を4つの学年で行いました。

橋の欄干に名前を書こう



学校の近くに新しくできた橋。その欄干に刻む「橋の名前」を習字で書きました。

中部地区公民館祭りへの参加



中学年有志で公民館祭りに参加しました。たくさんの拍手をいただきました。

③ 外部講師の積極的な活用

・メディア講演会(3・4年)



メディアとの上手な付き合い方について、外部講師の先生から教えていただきました。

・ながさき平和歴史ガイドの活用(4年)



4年生の長崎見学旅行では、平和歴史ガイドの方の説明を聞きました。

・薬物乱用防止教室(6年)



学校薬剤師さんによる講演を行いました。薬物の恐ろしさを感じました。

・福井洞穴の見学(6年)



福井洞穴まで出かけ、見学をしてきました。福井洞穴ミュージアムで係の方に話を聞きました。

④ 学力テストをふまえた授業改善や学力の向上

・市県全国学力調査



自分の力を測るために、どの子も一生懸命学力調査に取り組みました。

・チャレンジタイム国語



作文力の育成のため、どの学年も作文用ノートを準備して練習をしました。

・標準学力テストの実施(全学年)



12月に全学年標準学力テストを実施しました。その結果を受けて、さらなる学力向上を目指します。

・算数の研究授業



「課題に向かって、高い意欲をもって最後まで取り組む力」の

⑤ 情操教育としての栽培活動

・1年生 春の花栽培



管理員さんと一緒に、卒業式や入学式を花いっぱいにしてたくさんのお花を育てています。

・花いっぱい運動



花作りが得意な管理員さんと、委員会活動の見事なコラボレーションです。

・2年生 野菜栽培



大きなお芋がたくさんとれました。管理員さんといっしょに一生懸命お世話をしました。

3 おわりに

今年度、学校教育目標を「子どもの本物の笑顔をかがやかせる学校」と見直し、学校づくりを行ってきました。ここでいう「笑顔」は単なる笑いではありません。また、偽物であってもならないと考えています。

では、本物の笑顔とはどういった笑顔なのか。

笑顔を本物にするために大事にしていることは以下の3点です。

- ① 自分の笑顔（自己実現）…自分のことは自分でできる力
- ② みんなと笑顔（他者協力）…友達と協力できる力
- ③ みんなの笑顔（他者貢献）…周りの人のために頑張る力

この3点の笑顔を大事にすることで、子どもたちの笑顔を輝かせ、本物にしようと考えています。

そして、この笑顔は、子どもたちの社会性を育て、将来を支えていくものになると考えています。

今年度、こういったことを念頭に置き、特色ある学校づくりにおいても、教育実践を重ねました。具体的には実践事例にあげている通り、生活・学習規律の徹底、地域や外部との交流、学力の向上です。

生活規律の徹底については、はきものそろえは山手小の新しい伝統と言ってよいほど定着できています。また、あいさつについては、児童会の取組により今年ものぼり旗を作成しました。その旗には「えがおで だれにでも まっすぐ めをみて」と自分たちが目指すべきあいさつの姿が示されています。校門に立つこののぼり旗に見守られながら、少しずつあいさつへの意識と実践力が高まってきているところです。

また、今年度も地域や外部機関の方とのつながりの中で、子どもたちは学びを深めることができました。地域の方からの教えや体験活動は、子どもたちにとって何にも代えがたい質の高い学びであります。今年度、ご協力していただきました方々と関係機関の皆様には感謝いたします。

さらに、学力向上についても取り組みました。学力は子ども達の将来の可能性を広げます。学校全体での数値的な目標の設定をして、授業改善や基礎学力の定着に全職員が一丸となって取り組みました。結果、昨年度と比較し学力の伸びを確認できる学年がたくさんありました。

子どもたちの本物の笑顔を輝かせることに取り組んだ令和6年度。1つ1つの教育実践は、小さいものでしたが、その小さな実践を毎日毎日、1つ1つ積み重ねることで、令和6年度の教育実践の成果をあげることができたのではないかと考えています。

教育の道にゴールはありません。エンドレスで続いていきます。今後も今年度の特徴ある教育実践を礎に継続・進行させ、子どもたちの本物の笑顔を輝かせるよう日々精進して参りたいと思います。